

令和4年度  
事業報告書

社会福祉法人岩手愛児会

# 令和4年度 法人事業報告

令和4年度は、長引く新型コロナウイルス感染症によるパンデミックのもと、内外ともに厳しい経営環境において、経営の健全化、利用者への質の高いサービス、法人運営の透明性、法令遵守、働きやすい職場環境の整備等を念頭に、次の重点事項に取り組んできた。

## I. 運営方針の実施状況

### 1 外部評価及び外部監査等に基づく法人運営課題の改善

法人は、平成28年12月に「岩手愛児会中・長期経営計画」を策定後、みちのく・みどり学園の移転新築（令和2年2月29日竣工）を経て、令和2年6月に「岩手愛児会中・長期経営計画・第Ⅰ期見直し」を踏まえて、3年度に「岩手愛児会児童心理援助・治療センター」を開所し、また、4年度は日本財団による「みらいの福祉施設建築プロジェクト」への応募に向けて、外部委員を加えた「岩手愛児会みらいの社会福祉建築委員会」を設置し、地域コミュニティー連携及びこれらに付随する建物の構造・機能等について協議を重ねて、「イーハトーブみらいのこども広場整備事業～みらいのこどもの福祉・教育・医療・地域の広場～」構想として最終案をとりまとめたうえ、同年9月に日本財団に対して申請を行うものの、結果は「不採用」と厳しいものとなった。今後は、検証会での意見を考慮しながら「岩手愛児会中・長期経営計画（第Ⅴ期）」の更なる実効性を伴う事業推進が求められることとなった。

みちのく・みどり学園、ことりさわ学園とともに、岩手県社会福祉協議会による「福祉サービス第三者評価」は未受審であったが、これはコロナ禍の影響によるもので次年度以降に持ち越しとなった。

公認会計士事務所による監査は、会計、経理、決算及び業務全般の監査を5回受検し、財務運営、会計処理等について、専門的立場から個別の指導を受けそれぞれ改善を行ったところである。

### 2 経営健全化の推進

経営の健全化を掲げて20年が経過する中で、第Ⅰ期（平成14年度～18年度）は、初年度から著しい経営収支の改善があり、この期間の計画達成となった。第Ⅱ期（平成19年度～23年度）は、初年度時点で多額の現預金を保有し、平成20年度には借入金の一部繰上償還を実施できたが、平成21年度から平成23年度は、様々な要因（借入金返済負担、設備整備及び利用者減等）から施設及び病院の欠損が続いた。第Ⅲ期（平成24年度～28年度）の初年度は、経営改善が功を奏し施設及び病院会計とも剩余金が生じたが、25年度、26年度は、新規入所児の減少や施設基準の引下げ及び患者の減少等により施設、病院とも経営は大変厳しくなった。27年度は、施設会計は剩余、病院会計も患者数増や、国の公的病院等の助成措置に大幅な剩余を得た。28年度の施設会計は積立金・引当金の確保ができたが、病院会計は入院患者の確保の困難や国の補助金の大幅減（1/10）に伴い大変厳しい状況となった。第Ⅳ期（平成29年度～令和3年度）の初年度は、施設会計は剩余、こども病院は財政基盤の安定化が喫緊の課題であったが、理事会において平成31年3月末を以って病棟閉鎖による「無床診療所」への移行が決定し、法人として最大の懸案事項を抱えることになった。30年度は、施設会計は剩余、こども病院は診療所移行前の最終年度でもあり、退職金支出による多額の欠損となり大変厳しい状況となった。令和元年度から2年度は、様々な要因（新規入所児の減少、新型コロナウイルス感染症による患者の減少等）からの経営の永続的な安定化には課題を残すこととなった。第Ⅴ期（令和4年度～令和8年度）の初年度は、前年度に引き続き日本財団が行う「みらいの福祉施設建築プロジェクト」へ近未来像を描き挑戦したが不採用と大変残念な結果となった。

4年度の経営は、みちのく・みどり学園は施設整備等積立金16,000千円を積立てのうえ1,294千円の剩余、ことりさわ学園は1,721千円の欠損となった。もりおかこどもクリニックはコロナ禍による影響もあったが、2,991千円の剩余を確保することが出来た。

### 3 各施設及びクリニックと連携した強い防災対応体制を検討し整備する

#### IV. で報告

### 4 職員の健康管理、安全衛生体制を整備する

#### V. 及びVI. で報告

## II. 法人の運営

### 1. 理事会、評議員会等の概要と審議経過

#### (1) 理事会

##### ①理事（定数10～14、現員11）

会長	藤澤 昇
理事	米沢俊一、千葉伝、野原修一、猿舎和雄、木村泰雄、鈴木俊祐、花篠和博、佐藤巖、西山秀則、田中仁 ※村井軍一（～12/1）

##### ②開催状況

令和3年度事業報告、収支決算及び令和4年度事業計画、収支予算、補正予算その他の業務を審議するため、次のとおり開催した。

回	年月日	出席者数	審議事項
238	4. 5. 31	10	<ul style="list-style-type: none"><li>・みちのく・みどり学園施設整備等積立に係る承認について</li><li>・令和3年度事業報告（案）、収支決算（案）及び監査報告の承認について</li><li>・社会福祉法人岩手愛児会第86回評議員会の開催について</li><li>・第三者委員の選任について</li></ul>
239	4. 6. 28	10	<ul style="list-style-type: none"><li>・第2回日本財団みらいの福祉施設建築プロジェクトの申請にかかる事業計画（案）について</li><li>・令和4年度収支補正予算（案）の承認について</li></ul>
240	4. 9. 27	10	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和4年度収支補正予算（案）の承認について</li></ul>
241	4. 12. 15	9	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和4年度収支補正予算（案）の承認について</li></ul>
242	5. 3. 7	9	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和4年度収支補正予算（案）の承認について</li><li>・みちのく・みどり学園の定員の変更について</li></ul>
243	5. 3. 28	10	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和4年度収支補正予算（案）の承認について</li><li>・令和5年度運営方針（案）及び収支予算（案）の承認について</li><li>・令和5年度みちのく・みどり学園前期末支払資金残高の取崩承認について</li><li>・令和5年度ことりさわ学園前期末支払資金残高の取崩承認について</li><li>・退職手当支給規程の一部改正について</li><li>・給与規程の一部改正について</li></ul>

#### (2) 評議員会

##### ①評議員（定数11～15、現員13）

評議員	松木光平、高橋典成、鏡英夫、久保榮子、遠藤博孝、菊池輝光、及川俊一、佐々木悦子、高畑アサ子、佐藤東吾、刈谷忠、村上武男、鶴端チエ
-----	--

②開催状況

令和3年度事業報告、収支決算等を審議するため、次のとおり開催した。

回	年月日	出席者数	審議事項
86	4. 6.17	11	・令和3年度事業報告、収支決算及び監査報告の承認について

(3)評議員選任・解任委員会

①評議員選任・解任委員(定数3 現員3)

委員	柳田裕之、工藤實、樋渡秀樹
----	---------------

②開催状況

・令和4年度はなし

2. 監査の概要と監査状況

(1)監事監査

①監事(定数2 現員2)

監事	工藤 實、榎 廣
----	----------

②監査状況

令和4年4月1日から令和5年3月31日までの事業年度における理事の業務執行、法人の財産の状況、会計の執行状況その他について次のとおり監査を受検した。

開催年月日	出席数	内 容
4. 5. 20	2	令和3年度事業報告書、収支決算書、法人の財産の状況
4. 9. 8	2	出納調査(4~6月分)
4. 11. 24	2	出納調査(7~9月分)
5. 3. 2	2	出納調査(10~12月分)

(2)会計事務所監査

公認会計士事務所による内部統制的監査を次のとおり受検した。

開催年月日	監査員	内 容
4. 4. 18	2	現金実査、証拠書類、諸帳簿及び試算表の確認(1~2月分)
4. 5. 16	2	令和3年度決算監査
4. 9. 6	2	現金実査、証拠書類、諸帳簿及び試算表の確認(4~6月分)
4. 12. 8	2	" (7~9月分)
5. 3. 1	2	" (10~12月分)

### 3. 法人の主な動向（経過）

月	法人経過
4	・辞令交付、職員全体会議の開催 ・第2回岩手愛児会みらいの福祉施設建設委員会の開催
5	・第3回岩手愛児会みらいの福祉施設建設委員会の開催
6	・64回目の創立記念式典を挙行
7	・第47回種市転住
9	・岩手県による児童福祉施設指導監査（みちのく・みどり学園、ことりさわ学園）
10	・職員定期健康診断（～11月）
2	・ことりさわ学園学園公開（中止）
3	・第150回退園式

### 4. 主な寄付先

#### (1)一般寄付

月	寄付先
4	アサヒ軽金属工業(株)（大阪市）
5	(株) 日配運輸（矢巾町）
6	岩手愛児会後援会杏の会（盛岡市）
8	(株) 日配運輸（矢巾町）
11	(株) 北興建設（盛岡市）
12	(株) カガヤ（盛岡市）、大林社会保険労務士事務所（滝沢市） (株) 日配運輸（矢巾町）、東北apollo会（仙台市）
2	岩手愛児会後援会杏の会（盛岡市）
3	(株) 日配運輸（矢巾町）、(株) ヒラトヤ（盛岡市）

\* 法人、団体の10万円以上を掲載

## III. 各施設の経営

定款に定められた法人の事業目的を達成するため以下の施設経営を行った。

### 1 第一種社会福祉事業

#### (1)児童養護施設「みちのく・みどり学園」

開設：昭和32年6月1日

定員：30名

#### (2)一時保護専用施設（ユニット）「ゆりかご」（岩手県指定受託事業）

開設：令和2年5月1日

定員：6名

#### (3)地域小規模児童養護施設「石川ホーム」

開設：平成17年7月1日

定員：6名

#### (4)地域小規模児童養護施設「盛合ホーム」

開設：平成27年4月1日

定員：6名

(5) 地域小規模児童養護施設「村田ホーム」

開設：平成29年4月1日

定員：6名

(6) 児童心理治療施設「ことりさわ学園」

開設：昭和62年4月1日

定員：35名（暫定定員32名）

## 2 第二種社会福祉事業

(1) 医療施設「子どもは未来もりおかこどもクリニック」

開設：平成31年4月1日

(2) 乳幼児等健康支援デイサービス「たんぽぽ病児保育所」（盛岡市指定受託事業）

開設：平成7年6月5日

定員：6名

## IV. 災害事故等安全対策

- 1 消防法に基づく消防計画のもと、災害発生時に安全に且つ迅速に避難ができるよう総合防災訓練、夜間訓練、避難訓練等を概ね各月実施し、入所者の安全をはかった。

<防災訓練等実施状況>

4月 防災委員会の開催

避難場所・避難経路・防災全般の講話(防火管理者)

5月 避難訓練（各施設による事前訓練）

6月 総合防災訓練（通報・第一避難所避難・消火）（消防設備点検センター立会）

総合訓練後防災委員会の開催

7月 土砂災害映画鑑賞（避難情報の警戒レベルについて）

8月 避難訓練（盛岡市シェイクアウト訓練参加）

9月 総合防災訓練（通報・第一避難所避難・消火）（消防設備点検センター立会）

総合訓練後防災委員会の開催

10月 夜間避難訓練（非常放送・避難）

11月 避難訓練（緊急地震速報対応）

12月 職員防災教育（防災動画：冬道の避難の仕方）

1月 夜間訓練（非常放送避難）

2月 防災教育（動画鑑賞：マイ・タイムラインの制作）

3月 防災講話（防火管理者）

- 2 施設設備の総合安全点検を実施したほか、以下の業務委託等による自主点検を実施し、万全をはかった。

①消防設備保守点検	盛岡消防設備点検センター 年2回
②電気設備保守点検	東北電気保安協会 年6回

3 利用者の施設内外における障害事故に対応するため、引き続き障害保険等に加入し、万一の場合に備えた。

区分	対象者
レクレーション（傷害）・旅行保険	みちのくみどり学園・ことりさわ学園・たんぽぽ病児保育所
施設賠償保険	みちのくみどり学園・ことりさわ学園・もりおかこどもクリニック・たんぽぽ病児保育所
医師賠償責任保険	もりおかこどもクリニック

#### 4 防災設備の整備状況

- (1) 非常用自家発電機の燃料タンク設置(72時間稼働体制に)
- (2) ポータブル発電機整備(5台)

#### V. 職員研修

各施設、院内研修及び各種専門団体、県主催による各種研修会に対してコロナ禍のなか、オンライン形式等による会議参加など専門性の向上に努めた。

#### VI. 職員の福利厚生、健康管理

##### 1 福利厚生

職員の福利厚生は、引き続き(平成6年度から)福利厚生センター制度に加入し、常勤職員68名に対してその充実に努めた。

##### 2 健康管理

職員の健康管理については、各種健康診断・予防接種を実施し、健康の保持に努めた。

又、労働安全衛生法に基づく衛生委員会を毎月開催し、主な検討議題は

- ・定期健康診断の実施について
- ・ストレスチェックの取り組みについて
- ・インフルエンザ予防接種の実施について

##### (1) 定期健康診断実施項目

検査項目	尿一般・血液検査（赤沈、HBS、生化学、ABC検診）・貧血検査
項目	血圧測定・胸部レントゲン検査・心電図検査・聴力検査・その他

##### (2) 予防接種(インフルエンザ 10~11月実施)

##### (3) 健康診断の結果は、以下のとおりであった。

検査項目	有所見者数	検査項目	有所見者数	検査項目	有所見者数
胸部X線検査	2	血圧	43	貧血検査	3
肝機能検査	29	血中脂質検査	57	血糖検査	37
尿(糖)検査	2	尿(蛋白)検査	1	聴力(4000Hz)	14
心電図検査	6	ABC検診	20		

実施者数 108名

##### (4) ストレスチェック

検査を受けた職員数 55名

## 令和4年度 みちのく・みどり学園事業報告

### 1. はじめに

当園では、平成2年度から施設の高機能化、多機能化、地域分散化をすすめ、入所児童への安全で安心な生活環境づくりに取り組んできた。そして一人ひとりを大切にした養育と自立に向けた支援を行ってきた。

令和4年度は、入所児童39名でスタートし年度内3名の入所と9名の退所があり、3月末の在籍人数は33名であった。

職員採用においては、児童指導員・保育士を4名採用し施設における養育・支援体制を充実させてきたが、3月末までに職員5名の退職があった。

新型コロナウイルスの感染状況については、令和4年3月末に児童5名、9月～12月にかけて児童6名、修学旅行先で感染し職員が迎えに行く対応もあった。年明け2月には児童1名が陽性と診断された。この間、嘱託医の助言を受けてPCR検査を実施し、職員が防護服を着用し、感染拡大防止対策を行い小規模ホーム・本園の静養室等で隔離・療養を支援した。他のホーム児童や職員への感染拡大を防ぐことができた。しかし11月に感染者および濃厚接触者が増え、職員体制が厳しい状況の中で、職員からマルトリートメント（不適切な支援）の報告があり、再発防止に向けて体制の再確認や研修を行い関係機関へ報告書を提出した。

コロナ禍の長期化に伴い、地域の方々と交流する行事は中止が多かったが、洋野町種市のB&G体験や海上花火大会の観賞、西和賀「杜の家自遊舎」の宿泊体験、弁論大会、ホーム毎のクリスマス会、退園式などの子ども達主体の恒例行事は開催することができた。

職員研修も、全国、東北ブロック児童養護施設協議会など各団体が主催する参集型研修や、オンラインの研修に参加するとともに、施設内でも、テーマ別のグループによる研修などに取組み職員の資質向上に努めた。

最後に、コロナ禍でもケアニーズの高いケースに対応していくために、専門職をはじめ、職員一人ひとりが、関係機関と多面的な連携と共通理解を図り、支援の質の向上をさせていくための情報共有やコミュニケーションが大切であると感じた年度であった。

### 2. 運営方針について

#### ①児童の入所動向について

- ・4月1日の在籍人数は39名でスタートし、3月1日は41名であった。
- ・令和4年度の入所児童は幼児2名、小学生1名計3名であった。

#### ②児童の退園動向について

- ・令和4年度の退園児童は、幼児1名、小学生2名、中学生1名、高校3年生5名が退園した。内訳は家庭復帰が3名、障がい児施設1名、自立援助ホーム1名（専門学校進学）一般就労1名、福祉的就労が1名、就労支援施設が2名であった。

#### (1) 施設における社会的養育の推進と高機能化及び多機能化を図る。

- ・一時保護専用施設としても、PCR検査をもりおかこどもクリニックで実施し、陰性を確認して22名を受け入れた（2回の陽性判定があり受け入れを断った）。尚、対応の難

しい愛着トラウマを持つ児童が多く、日々の支援に活用するためD K T研修（怒鳴らない子育てトレーニング）を実施した。一時保護委託中の児童に対して、学校・児相と情報共有し可能な限り登下校の送迎支援し教育を受ける権利の保障に努めた。

・養育・支援について、毎月のA N T会議（被虐待児対応チーム）で、各ホームからの生活状況・個別の課題や状況について支援方針を確認し、養育会議で報告し全職員で共有している。また、各ホーム会議に管理職も参加し、職員と宿直専門員で常に支援体制や状況を確認し情報共有を行うことができた。

・地域小規模児童養護施設 3 施設で情報を共有し、お互いに連携し生活支援を行ってきた。地域の清掃活動等には積極的に参加するなど、コロナ禍ではあるが、地域の方たちとのより良い関係を築けるよう取り組んできた。

・職員体制において、コロナ禍で実習生やアルバイトの受け入れが厳しい状況であったが、新規採用 3 名と、宿直専門員 2 名の確保を行うことができた。

## （2）子どもの権利擁護・最善の利益を保障する

・子どもの自立支援計画については、子どもと保護者の意見に、児童相談所の方針を合わせた計画を立てた。ANT 会議（被虐待児対応チーム）が中心にアセスメントし、子どもの権利を保障し適切な養育・支援をおこない家庭復帰や就労等の自立支援を実践することができた。

・自立支援計画に基づき、早期家庭復帰や親子関係の修復・再構築に向け、家庭状況に合わせた定期的な面会・外出・外泊を実施した。また、親子交流室や鐘の館を使用した家族（親子・兄弟姉妹）交流を実施した。

・コロナ感染対策を含め医療的なケアや、被虐待児の治療のため、子どもは未来もりおかこどもクリニックの嘱託医からの助言を受けて対応することができた。重篤な被虐待児の対応においても未来の風せいわ病院と連携して支援にあたることができた。

・苦情解決第三者委員会は、5・1 月の年に 2 回実施した。苦情についてはなかったが、子どもたちからの意見として「Wi-Fi の設置」「小遣いの値上げ」の希望があり、子ども達の話し合いも含めて運営会議で検討し実施の方向で調整している。

・毎月こどもホーム会議を実施した。それぞれ目標や生活の振り返りや、意見・要望に関しては、ホームごとで対応してきたこと運営会議の中で共有した。

・司法書士の講師を招いて、高校生と職員対象にインターネットトラブルの研修を実施しスマートホン等のトラブルについて学んだ。

・退園児童の支援においては、関係機関と連携した家庭訪問等、退所児の定期的現状確認を行い、必要に応じて支援もおこなった。

## （3）安心・安全な施設づくりを目指す。

・児童の生活支援や、日常業務、環境面、衛生管理等で多岐にわたった「ヒヤリハット」が 55 件あげられた。運営委員会で対策・検討等し職員会議で改善策を提起し全職員が共有することができるように努めた。

・低年齢児のコロナ感染療養の状況が続き、職員体制が厳しい状況の中で、マルトリートメント（不適切な支援）の報告があり、再発防止に向けて体制の再確認や研修を行い

関係機関へ報告書を提出した。

- ・全国児童養護施設協議会「倫理綱領」や「人権擁護のためのチェックリスト」を活用し不適切な支援の予防と、自己チェックリスト、人権侵害の防止・虐待防止・職員の姿勢に関する事など、職員自身の子どもに対する支援を振り返るとともに、虐待防止に対する意識を高く持ち続けることを目的とし、全職員で年2回の自己評価を行った。
- ・食育支援については、栄養士からの助言を受けて衛生面も含め職員の食事作りも定着してきた。コロナ感染の隔離・療養ホームの後方支援として、ディスپで食事を提供し感染拡大防止に努めた。

#### (4) 職員一人ひとりの専門性の向上と働きやすい職場環境づくりに努める

- ・職員間の連携について、今年度もコロナ感染防止対策のため、各ホームでオンラインを活用し、日々の申し送り、養育会議を行い情報共有し連携することができた。
- ・処遇困難なケースや発達障害を有する児童が増加しており、本体施設の小規模ホームや地域小規模児童養護施設等においては、職員のスキルアップを図り、専門性を高めるため、トラウマインフォームドケアの研修と、D K T研修などの職場内研修を実施するとともに、オンライン等による専門研修に参加した。
- ・研修委員会を中心に、講師を招いて施設内研修（緊急蘇生法、健康学習プロジェクト等）や、階層別研修、コロナ感染対策研修を継続してきた。職員一人ひとりの研修計画に基づいた研修を行うことができた。

#### (5) 地域の子育て支援に参画し開かれた施設づくりをめざしていく。

- ・地域養護活動については、7月に第47回種市転住を小学生中心にB&G体験や海上花火大会を楽しむことができた。西和賀「杜の家自遊舎」で中学生が宿泊体験を行った。
- ・松園夏祭りでは、感染防止のため縮小されたが太鼓参加と神輿展示をすることができた。松園柔道教室においては、感染防止策を講じながら活動を継続することができた。
- ・県公募の「フォースターリング機関」に申請したが、乳児院が採択となった。里親支援の活動については、一時里親は夏季・冬季休業時に合計児童9名利用。里親登録前研修（実習）は計18名、岩手県里親会主催の研修会場を提供、普及啓発活動、里親家庭訪問1件、未委託里親訪問1件行った。里親支援定期会議はリモートも含めて毎月実施した。
- ・各施設の里親支援専門相談員と井上寿美教授（大阪大谷大学）、笹倉千佳弘教授（滋賀短期大学）の共同で里子向けハンドブック「ぽっけの一と」を作成した。
- ・近隣大学及び専門学校の実習生の受け入れについて、保育実習が16名、ソーシャルワーク実習5名、看護総合実習1名であった。人材確保・育成を見据えて学生アルバイトや、ボランティアについても感染対策を行いながら受け入れた。
- ・盛岡市要養保護児童対策地域協議会と連携して虐待防止等の予防対策に務めた。子育て短期支援事業については、盛岡市が2名の利用があった。
- ・令和4年度の地域公益活動「IWATE・あんしんサポート事業」については、盛岡市社会福祉協議会から計1件の相談があった。

#### ※資料 職員構成 入所（初日月別・学年別）状況

令和4年度

みちのく・みどり学園職員構成

職種別	職種	施設長	児童指導員・保育士	個別対応職員	家庭支援専門相談員	事務員	調理員等	嘱託医	里親支援専門相談員	心理療法担当職員	看護師	ケア小規模グループ専任職員	分散化専任職員域	特別指導費加算職員	一時加算保護実施特別	その他	計
定数	1	9	1	2	1	4	1	1	1	1	1	8	9	1	3	0	43
正職員	1	9	1	2	1	3	0	1	1	1	0	4	8	1	2	0	34
臨時職員	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	8	7	0	5	6	28
非常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
嘱託	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	1	9	1	2	1	4	1	1	1	1	1	12	15	1	7	6	63

みちのく・みどり学園入所(初日月別・学年別)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	12
幼児	4	4	4	4	4	5	5	5	5	6	5	5	56	4.7	
計	4	4	4	4	4	5	5	5	5	6	5	5	56	4.7	
小1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60	5.0	
小2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	26	2.2	
小3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0	
小4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
小5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0	
小6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0	
計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	15	15	170	14.2	
中1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0	
中2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0	
中3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0	
計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0	
高1	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0	
高2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0	
高3	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0	
計	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0	
中・高卒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
合計	39	39	39	39	39	40	40	40	40	41	41	41	478	39.8	

みちのく・みどり学園 一時保護所入所状況

	岩手県福祉総合相談センター	一関児童相談所	宮古児童相談所	計
幼児	5	1	1	7
小学生	10	0	2	12
中学生	3	0	0	3
高校生	0	0	0	0
計	18	1	3	22

みちのく・みどり学園 子育て短期支援事業利用状況

	盛岡市	滝沢市	紫波町	矢巾町	八幡平市	零石町	岩手町	計
利用者数	2	0	0	0	0	0	0	2

## 令和4年度 ことりさわ学園事業報告

### 1. 運営の基本

令和4年度はコロナ禍の特例措置により暫定定員32名が認められたが、定員（35名）に対する充足率は71%に留まり運営上厳しい状況が続いた。また、年度途中の退園者も含め8名が退所し、令和5年度は初日在籍18名からのスタートとなり、暫定解消が喫緊の課題となっている。その一方で虐待や発達を背景に、令和4年度は精神科および児童精神科への受診率が88.0%、薬物治療を必要とするケースに至っては92.0%に達し、高度のケアを必要とする難しいケースが依然高い水準をしめている。

子どもは未来もりおかこどもクリニックと連携強化を図りながら取り組んできた「児童心理援助・治療センター」は、コロナの影響により新規外来相談を2ヵ月あまり止めながら運営を行ってきたが、相談延べ件数は780件に達しており、昨年度同様にニーズの高さを感じられた。

その他、新型コロナウイルスの変異株が全国的にも猛威をふるう中、令和4年度も法人の対策委員会と連携を図りながら感染予防に努め、また感染者、濃厚接触者、非感染者とに分け、1階と2階でゾーニングを行う事により感染児童3名のみで止めることができた。地域交流や家族交流等に対しては中止や制限を掛けながらも当園の治療支援の柱でもあるグループ活動に関してはコロナの感染対策に十分配慮した中で昨年度よりさらに活動の幅を広げることが出来た。

#### （1）児童の入所の動向

- ① 4月の初日在籍は25名（暫定定員32名）でスタートし、年度末3月の在籍児童数が18名となっている。
- ② 県内児童相談所の措置状況（センター0名・一関0名・宮古1名）
- ③ 入所児童1名はASD、愛着障害、ゲーム依存で未来の風せいわ病院からのケース

#### （2）児童の退所の動向

- ① 退所児童数8名（センター7名・一関1名）
- ② 学年別では高校生5名（福祉型就労でグループホーム1名・就労移行で家庭復帰1名  
障碍者支援施設1名・医療保護入院中1名・家庭引き取り1名）  
中学生2名（高校進学で家庭復帰1名・児童養護施設への措置変更1名）  
小学生1名（家庭引き取り1名）

### 2. 治療・支援方針

#### （1）心理治療

- ・自立支援計画に基づく個別の心理治療計画（心理治療方針、心理治療プログラム等々）を策定し他職員との共有化を図った。
- ・令和4年度もソーシャルスキルトレーニング（SST）に関しては岩手大学の佐々木先生の協力のもと取り組んできた。
- ・盛岡青松支援学校との病状説明会、ケース会議等において、心理の面からも情報を提供、共有化を図りながら支援を行った。

- ・インターク面接や親面談等へも心理職が同席し、インフォームド・コンセント（説明と同意）に努めた。
- ・WISC-Vの検査セットを新たに購入し、導入準備を行った。

## (2) 生活支援

- ・月1回のケース検討会や個別支援会議を実施しながら自立支援計画の見直しを図り、必要に応じてチーム会議や応援会議を開催しながら本人およびその家族とも課題や目標の共有化を図りながら支援を行った。
- ・月1回のコロナ対策委員会議の他、状況に応じて臨時会議も開催しながら感染予防に努めた。
- ・生活環境整備委員会とコロナ対策委員会を連動させながら、感染予防の視点に立った生活環境の見直しとコロナ感染者が出た場合を想定した、実際の職員体制における行動シミュレーションおよび内部研修を実施した。
- ・コロナ感染予防対策として、換気およびアルコール消毒の徹底を行ってきた。
- ・年度初めに全児童に対するアンケートを実施。また、各グループ（小学生、中高生男子、中高生女子）に分かれて生活オリエンテーションも実施しながら、児童の権利擁護について説明を行った。
- ・健康学習（性教育）に関しては「生と性を考える」ワーキンググループを立ち上げ、入所児童に対する健康学習（性教育）の在り方や具体的なプログラムの検討を行ってきた。
- ・治療の柱でもあるグループワークの展開に関しては、県内のコロナ感染状況を見ながらコロナ対策委員会とも協議検討し5月の「遊々合宿」については宿泊を伴わない学園周辺での活動に、小学生グループ、中高生男子グループ、女子中高生グループのグループ活動に関しては感染予防に充分配慮しながら実施した。また、「スキー教室」も県内のコロナ感染状況を確認しながら休憩所を貸し切りにしてもらい日帰りで実施した。
- ・自治会のリーダー研修会を月1回（全12回）開催しながら、児童一人ひとりの意見を取り入れ、主体性や自主性を育んで出来た。
- ・コロナ感染予防のため、今年度も保護者対象の給食試食会に関しては中止としている。児童に対する嗜好調査は実施し給食メニューに反映させながら、食育を図ってきた。
- ・法人の防災計画に従って、月1回（年12回）防災訓練を実施。入所児童および職員の防災、防犯意識を高めた。

## (3) 医療、学校教育その他関係機関との連携

- ・園医である高砂子先生にもケース検討会へ参加をして頂き、医療面からのコンサルテーションを受けながら医療連携を図った。
- ・未来の風せいわ病院の智田Drの協力をもらいながら月1回のカンファレンスとコンサルテーションを実施してきた。
- ・盛岡青松支援学校とは病状説明会（年度初め4月）、学校センター連絡会（生活指導を毎月1回、保健指導を年3回）、ケース会議（年8回）、進路指導連絡会（中学部及び高等部それぞれ年2回）開きながら連携を図った。
- ・退所準備のリービングケアに限らず退所後のアフターケアも含め、必要に応じてケア会議および支援会議をリモート（ZOOM）も活用しながら、医療、教育、福祉の連携を図ってきた。

- ・盛岡市教育委員会事務局の協力のもと、不審者情報をメール配信してもらいながら防犯強化を図ってきた。
- ・各児童相談所との連絡協議会を今年度は対面で実施。センターとは6／29に、一関児相とは6／30に、宮古児相とは7／1にそれぞれ開催しながら連携を図ってきた。

#### (4) 家族との治療協力

- ・インターク面接を重視しながらインフォームドコンセントの強化と徹底を図った。
- ・家族会はコロナの感染予防に充分配慮しながら全6回のうち5回を参考で開催し、1回を郵送による文書説明と文書決議とした。
- ・その他8月の“家族交流バーベキュー”は昨年度と同様コロナ禍により中止とし、「ゲーム依存」の保護者向け学習会と各グループ活動の報告会を実施した。

#### (5) 地域交流・地域貢献

- ・「児童心理援助・治療センター」に関しては、コロナ感染予防に充分に配慮し、入所児童との動線を分けながら、「子どもは未来もりおかこどもクリニック」と連携のもと相談事業の強化を図って来た。

※園内のコロナ感染に伴い12月から1月にかけて新規外来相談を止めている。

※令和4年度相談実績：相談家族59ケース（新規35、継続24） 延べ相談件数780件（※昨年度比：235件減）

- ・岩手県学校教育相談研究会、盛岡市学校教育相談研究会の理事及び事務局員として、また盛岡市教育委員会「不登校対策委員会」の委員として協力を來た。
- ・子どもの心身発達育成研究会に関してはコロナ禍の折り、予定されていた2回の研究会は中止としたが、6月開催の学習会「心理検査（WISC-IV）の実施と結果（報告書）の解説」は参考で開催し54名が参加。学校教育相談夏季研修会「円滑な対人関係づくりに役立つコミュニケーション」は講師にフリーランスアナウンサーの後藤のりこ氏をお迎えし、学校教育相談冬季研修会「被虐待児の早期発見と対応・支援」は精神科医の早川洋氏をお迎えして、それぞれZOOMと参考の開催で26名と43名の参加となっている。
- ・和太鼓で参加してきた松園夏祭りや葛巻町民祭り、テンパーク祭り、療育センターサマーフェスティバルおよび小鳥沢1、2丁目敬老会や西和賀町長瀬野地区敬老会との交流、西和賀および松園地区の「雪あかり」等々、地域との交流に関しては、昨年度に引き続き令和4年度もコロナの影響により全て中止となつた。
- ・地域ボランティア受け入れや近隣町内会への切り絵教室もコロナの影響により、全て中止とした。
- ・2月の学園公開についても昨年度に引き続き令和4年度も中止とし、外部を入れず1年間の活動の振り返り発表会を企画した。

### 3. 人材育成と職員研修

令和4年度は、コロナの影響も弱まり、対面形式の研修が増えたことから、オンライン形式とあわせて研修派遣を進めることができた。また、職員研修委員会も隔月のペースで計6回開催した。

### ■指定研修

- 「全国児童心理治療施設全体職員研修会」北海道 オンライン 3名参加
- 「全国児童心理治療施設職員研修会心理治療部会」岐阜県 1名参加

### ■ライフステージ研修

- 「新設・新任職員研修会」虹センター 1名参加
- 「中堅職員研修会」オンライン 2名参加
- 「チームリーダー専門研修会」オンライン 2名参加
- 「基幹的職員研修」相談センター 1名参加

### ■専門職員研修

- 「第1回児童相談所・児童福祉施設心理療法担当職員等研修会」オンライン 5名参加
- 「福祉スキルアップ研修会（栄養士対象）」オンライン 1名参加
- 「盛岡市人権啓発講演会」おでってホール 1名参加
- 「衛生講習会」勤労福祉会館 1名参加
- 「福祉施設の自己評価・第三者評価研修会」オンライン 1名参加
- 「児童福祉施設協議会児童福祉施設職員研修会」ふれあいランド岩手 3名参加
- 「第2回児童相談所・児童福祉施設心理療法担当職員等研修会」オンライン 4名参加
- 「児童福祉施設協議会施設間交流研修会」ふれあいランド岩手 1名参加

### ■園内研修

- 「情報メディア講座」 20名参加
- 「コロナ感染予防」 19名参加
- 「のぞえの丘病院・筑後いずみ園の取り組み」 18名参加

・県立大学三上先生の協力のもと、令和4年度も3名の心理職員の他、ケース担当も派遣し、コンサルテーションを受けながら個々のスキルアップとSV体制の強化を図った。

## 4. 施設整備及び人材確保

- ・外壁モルタルの補修工事
- ・照明 LED 化工事
- ・食堂のテーブル飛沫拡散防止パネルおよび抗菌防火カーテンの設置（コロナ対策）
- ・漏水調査
- ・人材確保に向け、県立大学、盛岡大学の「就職活動センター」とそれぞれアポを取り、挨拶と情報交換を行ってきた。

（資料） 〈職員構成〉 〈初日在籍数〉 〈進路の動向〉 〈令和4年度相談内訳〉

(資料1) 職員構成

職種別	職種	施設長	医師	児童指導員	保育士	看護師	心理療法士	栄養士	調理員	事務員	専門相談員	計
定数	1	1		15		1	5	0	4	1	0	28
	正職員	1	1	9	5	1	5	1	3	1	0	27
	臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	非常勤	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	4
	嘱託	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		1	1	16		1	5	1	4	1	2	32

(資料2) 初日在籍数(充足率71.2%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男子	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204
女子	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	95
計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	299

(資料3) 進路の動向(中3)

	一般高校	単位制高校	支援学校	私立高校	その他	計
退園	0	0	0	1	0	1
在園	0	0	1	2	0	3

(資料4) 進路の動向(高3)

	進学	就職	その他	計
退園	0	1	3	4

## 令和4年度相談の内訳

ことりさわ学園 児童心理援助センター

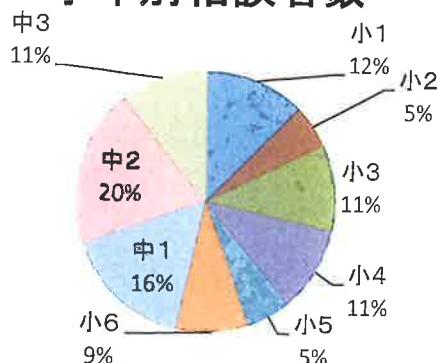
59事例(内継続24事例)

延相談件数 780件

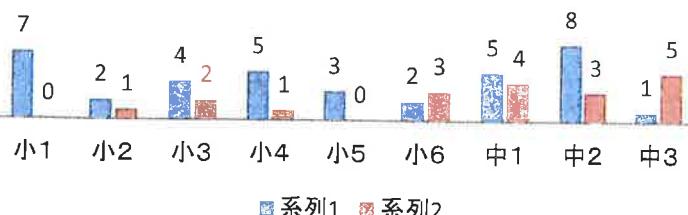
### 学年別相談者数

学年	男		女		男女計	
	人数	%	人数	%	人数	%
小1	7	18%	0	0%	7	12%
小2	2	5%	1	5%	3	5%
小3	4	10%	2	10%	6	10%
小4	5	13%	1	5%	6	10%
小5	3	8%	0	0%	3	5%
小6	2	5%	3	15%	5	8%
中1	5	13%	4	20%	9	15%
中2	8	21%	3	15%	11	19%
中3	1	3%	5	25%	6	10%
高1	1	3%	1	5%	2	3%
高2	1	3%	0	0%	1	2%
計	39	100%	20	100%	59	100%

### 学年別相談者数



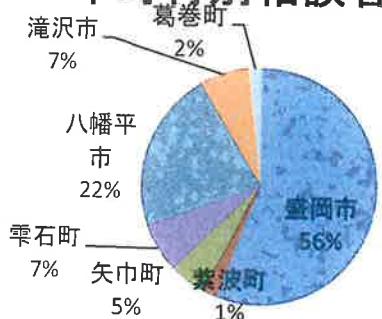
### 学年毎男女別相談者数



### 市町村別相談者数

市町村	男		女		男女計	
	人数	%	人数	%	人数	%
盛岡市	19	49%	14	70%	33	56%
紫波町	1	3%	0	0%	1	2%
矢巾町	2	5%	1	5%	3	5%
零石町	3	8%	1	5%	4	7%
八幡平市	10	26%	3	15%	13	22%
滝沢市	3	8%	1	5%	4	7%
葛巻町	1	3%	0	0%	1	2%
計	39	100%	20	100%	59	100%

### 市町村別相談者数



### 主訴別相談者数(重複あり)

主訴	男		女		男女計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数
発達障害の疑い	27	7	14	0	34	0
登校渋り・不登校	5	9	14	0	27	0
学校不適応	7	6	13	0	26	0
学業不振	2	1	3	0	5	0
家庭内暴力	0	0	0	0	0	0
不定愁訴	0	0	0	0	0	0
ゲーム依存	2	0	2	0	4	0
いじめ	0	1	1	0	1	0
行為障害	0	1	1	0	1	0
愛着	1	2	3	0	5	0
場面緘默	1	1	2	0	3	0
摂食障害	0	1	1	0	1	0
チック	2	0	2	0	4	0
HSC	0	1	1	0	1	0
計	47	30	77	0	124	0

### 発達障害の疑い



### 主訴別相談者数

■ 男 人数  
■ 女 人数

## 令和4年度 子どもは未来もりおかこどもクリニック事業報告

### 1. 経営収支等

#### (1) 患者数の動向

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、7月以降は全国的に小児への感染が拡大した結果、当クリニックでもコロナ感染による患者数が増加しました。また、3年ぶりに季節性インフルエンザの流行が重なったこともあり、1日平均外来患者数は当初の見込みの45人から48人の患者数を確保することが出来ました。

しかし、予防接種及び乳児健診の利用者数は減少した一方、前年度に引き続き新型コロナワクチン接種を受け入れ、小児・成人と合わせて延べ445人へ接種を行いました。

#### (2) 患者1人1日当たりの平均収入

外来収入は、14,065円で前年度と比較して4,345円(23.6%)もの大幅減となりました。要因としては、成長ホルモン治療にかかる診療費の減収によるものであります。しかし、一般外来患者における平均単価はコロナ診療による診療報酬加算などで前年比168円(22.3%)増となりました。歯科収入は、5,917円で前年度に比較して201円(3.3%)減となりました。

#### (3) 収支の状況

決算見込みとして、1日平均患者数を外来45人、歯科9人による収支状況を4,399千円の欠損を見込んでいましたが、外来において新型コロナウイルス感染の小児への感染拡大及び3年ぶりとなる季節性インフルエンザの流行も相まって、患者数の増加に繋がり最終的に2,991千円の黒字となりました。

##### (収支状況)

- ① 新型コロナウイルス感染の小児への拡大及び季節性インフルエンザの流行による外来患者数の増加（前年比+952人）
- ② 一般外来患者の平均単価の増加（前年比+22.3%）
- ③ 予防接種（前年比△207人）及び乳児健診（前年比△33人）での利用者数の減少
- ④ 物価高騰による光熱費等の支出増加
- ⑤ 新型コロナ感染予防対策のための診療療養材料費（コロナ感染検査キット等購入代）の経費増加（前年比47.8%）

### 2. 法人内施設との連携

これまで当クリニックは安定経営のために、他小児科クリニックで受け皿となりえない小児疾病に特化したクリニックを目指すべく努力してきました。また、子どもを取り巻く大きな社会的問題は不登校、いじめ、発達障害、家庭の貧困、虐待であるとの観点から、対象となる子どもたちに特化した診療体系を確立するために、令和3年4月から当法人事業として「岩手愛児会児童心理援助・治療センター(以下、センター)」を開所して、引き続きことりさわ学園スタッフと協働して不登校・いじめ・発達障害の子どもたちを毎週水曜日午前中半日のセンター外来において運営の継続を行いました。

### 【ことりさわ学園との連携】

前述のセンター運営に関わる連絡・相談を随時実施し、外来相談者の診療の充実を図りました。さらにセンターの事業として、八幡平市内の学校不適応児対応について八幡平市教育委員会並びに当該校教諭との協議会を開催しました。5年度も継続する予定です。

### 【みちのく・みどり学園との連携】

みちのく・みどり学園の養護児童の心理治療を受け、当クリニック臨床心理士の有効活用に繋げました。

### 【たんぽぽ病児保育所との連携】

病児保育所運営に指導医として診療応援並びに園児の健康管理を行いました。

### 【法人内新型コロナ感染予防対策】

- 院長が法人内新型コロナ感染予防対策委員会の委員長として、施設内感染予防マニュアルに基づいてすべての感染情報を共有のうえ、法人内の感染対策の陣頭指揮を執り予防対策を徹底することにより、未然にクラスター発生の防止に繋げました。
- クリニック内の法人職員に対して予防接種を実施して、職員の感染予防に努めました。
- 令和4年2月にクリニック内に新型コロナウイルス判定のためのPCR検査機器を導入のうえ、前年度に引き続き法人職員及び入所児童への積極的な検査を行い、施設内感染拡大の未然防止に取り組みました。

なお、PCR検査機器による検査件数は515件でした。

## 3. 地域医療への支援活動

学校医・幼稚園・保育園園医として、3人の医師が学校医として5校、園医として7園を担当して、保険外診療として小児保健に協力しました。

同様に保険外診療として岩手町の乳幼児健診を月2回担当して、岩手町の子どもの健康管理に協力しました。今後は「岩手町まるごと子育て支援」の実施に向けて、4年度は中島臨床心理士を5歳児相談のスタッフとして派遣しました。

## 4. 専門性に特化したクリニック

一般開業医診療所が対象としている疾患と異なり、従事医師による各専門領域の消化器疾患、内分泌・代謝疾患児の予約外来を設けて診療を行い、コロナ禍による影響を最小限にすることで一定の患児数を確保しました。

特に、クリニック移行後は心身症・学校不適応児の予約外来を拡充し、年間の心理士介入患児数は延べ1,918名となりました。この1年間のカウンセリング新規患者は年間62人（10人は予約待機）となります。相談件数増加の状況を踏まえて、令和4年4月以降は電話相談による新規受付を休止しております。

## 5. 実習生受け入れ

### ①公認心理士養成に係る心理実践実習

依頼元：岩手大学大学院 総合科学研究科 佐々木誠准教授

実習時期：令和4年5月～令和5年3月

実習生：岩手大学大学院2年生 1名

②岩手看護専門学校看護学生臨地実習

依頼元：岩手看護専門学校 本科

実習時期：令和4年5月～9月 1クール7～8日間×各2名 計6名

実習生：岩手看護専門学校本科 3年生 6名

③岩手保健医療大学看護実習臨地実習

依頼元：岩手保健医療大学

実習時期：令和4年10月17日～10月20日

実習生：岩手保健医療大学 4年生 2名

## 6. 新型コロナウイルス感染症対策について

①新型コロナウイルス感染症マニュアルを適宜改訂を行い、手順に沿って診療を実施しました。

②職員の体調管理では、令和2年10月から出勤時の検温記録を継続して実施しました。

③前年度に引き続いて発熱・一般外来と予約専門外来の時間帯を分けて診療を実施しました。

④発熱が続いている患児、もしくは新型コロナウイルス感染症が疑われる場合は、クリニック正面玄関入口手前に特設のプレハブ診察室を設置して診療を行いました。

⑤新型コロナウイルス感染症と疑われる患児との接触は、PPE（個人用防護具）着用及び手指消毒の徹底を図りました。

⑥令和4年度新型インフルエンザ患者入院医療機関等設備整備費補助金を活用して、外来中待合室へのオゾン空気清浄機（1台）及び発熱外来用簡易プレハブ（レンタル）を設置しました。

## (別表)

## 1. 患者数の状況(患者延数)

区分		外来		歯科	
4	実績 a	14,002	人	1,969	人
3	実績 b	13,068	人	2,242	人
増 減	a-b=c	934	人	△ 273	人
	c/b	7.1	%	△ 12.2	%

## 3. 患者1人1日当平均収益

区分		外来		歯科	
4	実績 a	14,065	円	5,917	円
3	実績 b	18,410	円	6,119	円
増 減	a-b=c	△ 4,345	円	△ 202	円
	c/b	△ 23.6	%	△ 3.3	%

## 2. 1日平均患者数

区分		外来		歯科	
4	実績 a	48.4	人	8.4	人
3	実績 b	45.7	人	9.6	人
増 減	a-b=c	2.7	人	△ 1.2	人
	c/b	5.9	%	△ 12.5	%

## 4. 診療実日数

区分		外来		歯科	
4年度		289	日	235	日
3年度		286	日	234	日

## 5. 月別患者数(外来)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R 3	1,060	1,037	1,040	1,172	1,027	976	1,028	1,275	1,241	1,041	1,009	1,162	13,068
R 4	1,018	1,037	976	1,069	1,189	1,152	1,392	1,330	1,272	1,098	1,238	1,231	14,002

## 月別患者数(歯科)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R 3	213	185	191	230	198	183	214	155	189	174	146	164	2,242
R 4	174	148	211	182	184	170	139	145	146	156	108	206	1,969

## 月別患者数(予防接種)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R 3	82	92	69	68	86	69	130	364	301	111	80	68	1,520
R 4	65	56	55	54	55	49	113	276	259	157	70	104	1,313

## 月別患者数(乳児健診)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R 3	20	13	17	10	19	13	18	19	12	12	17	13	183
R 4	19	14	17	13	8	15	9	8	14	13	9	11	150

## 6. 心理士介入ケース実績(月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R 3	199	173	204	211	185	196	230	208	231	192	193	221	2,443
R 4	205	150	150	167	164	169	168	148	158	135	145	159	1,918

## 7. 小児特定疾患カウンセリング料 算定患者件数実績(月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R 3	255	222	262	260	251	259	269	265	274	261	220	259	3,057
R 4	229	214	230	222	221	220	187	200	196	212	178	223	2,532

## 令和4年度 たんぽぽ病児保育所事業報告

1 盛岡市の運営補助金は、基本分4,493千円、加算分2,000千円（年間延べ利用児童数に応じた実績払い）並びに保護者負担事業費分385千円と改善分1,334千円で実績額8,212千円となりました。

令和4年度は、指導医のもと長引く新型コロナウイルス感染症対策と、緊急時のバックアップ体制の強化と安全安心の運営を行いました。また、新型コロナウイルスのオミクロン株流行下の中、上半期は利用者数が43名にとどまりましたが、下半期にウイルス風邪や季節性インフルエンザの流行等により132名を受入れ、年間総利用者数は175名となりました。しかし、年間のキャンセル件数は86件（キャンセル率33%）となり、保護者の職場等における休日を取得しやすい環境があり施設利用の減少に繋がったものとなりました。

当保育所では、携帯電話による受付に加えてLINE登録者数も250名程にのぼり、多くがLINE予約での利用となっています。また、前年度同様に看護の相談や保育の状況報告、給食のアレルギー対応と病状に合わせた温かい自然食の提供は評判も良く、リピート利用に大きく結びついています。

広報活動は、近隣保育施設の巡回を感染予防対策のため電話での実施として、市内保育施設107カ所への情報提供の他に、たんぽぽ通信（感染症の情報や予防策等）を年4回発行し市役所や利用者・各保育施設から好評を得ています。今後も利用者確保に向けて、令和5年度からは滝沢市に対しても積極的に広報活動を展開していく予定です。

2 利用状況は、感冒等135名と大半を占め次いで胃腸炎関連15名と他疾患でした。利用者の内訳は、新規利用者39名、広域利用者6名の総利用者数175名となっています。年齢別は0～1歳児が57%を占め、2～3歳は25%、小学生はわずか3%の利用となっています。

### 3 利用状況

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
利用者数	235	272	239	175
月平均	19.5	22.7	19.5	18.7
1日平均	0.99	1.15	1.02	0.78
盛岡市外	27	41	39	6
広域利用	24	36	38	6
広域外	3	5	1	0

### 4 職員体制

常勤看護師1名、臨時保育士2名

職種	定数	正職員	臨時職員	合計
保育士	2	0	2	2
看護師	1	1	0	1
計	3	1	2	3

事業報告の付属明細書

令和4年度事業報告には、「社会福祉法施行規則」第2条の25第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。